

## 平成28年度第2回四日市市総合教育会議

平成29年2月1日

午前 9時30分 開会

### 1 開会

○館政策推進部長 それではお時間となりましたので、総合教育会議を始めさせていただきます。

お手元に事項書がございますように、本日は28年度の第2回総合教育会議ということでございます。この会議は公開ということになってございまして、現在3名の傍聴の方、それから、報道関係が5社入っていただいております。よろしくお願いいたします。

本日の議題でございますが、お手元の事項書のとおり、3、4、5とありますように、朝明中学校、それから四日市独自の教育プログラム、それから総合教育会議における今後のスケジュール（予定）となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、資料のご確認をさせていただきます。事項書、構成員の名簿、座席表、それから、朝明中学校移転建替基本構想（案）一部抜粋となっている冊子、今後の学習指導要領改訂スケジュール、それから、総合教育会議における今後のスケジュール（予定）というようになっています。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。確認をさせていただきました。

### 2 構成員紹介

○館政策推進部長 それでは、本日の事項、2番に入っていきますが、本年度2回目の総合教育会議と申しましたが、新市長になられて最初の総合教育会議でございますので、まず、市長からご挨拶を頂戴できたらと思います。

○森市長 四日市市長の森智広と申します。よろしくお願いいたします。

本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。私が市長に就任をいたしまして初めての総合教育会議を開催することができまして、非常にうれしく思っております。このメンバーでは初めての会議ということですので、私の教育に対する考え方、思いというものをまず皆様方にお伝えしたいと思っております。

私は、昨年11月の市長選挙の際にも、教育、子育て支援というもの、そして、また、

教育環境改善に関して大きく掲げ、戦わせてもらい、市民の皆様から多くのご支援をいただき、市長の職につかせていただくことができました。

また、先日の緊急議会の際の所信表明におきましても、教育するなら四日市、こういった都市イメージの定着に向けて取り組んでいきたいということを明言させていただきました。その実現のためにさまざまな取り組みを考えているわけでありますけれども、教育における専門的な知見をお持ちの委員の皆様方に対しても、いろいろなご意見をいただきながら、そういった取り組みを進めていきたいと思っております。

この会議では、教育に関する総合的な施策の大綱を定めるということになっておりまして、これまでのご議論の中で、四日市市教育大綱、さらにその理念を実現するための実施計画であります、四日市市学力向上アクションプランを策定していただいております。この大綱と学力向上アクションプランにつきましては、私も基本的には理念などは同じものと捉えております。

今後、具体的な取り組みを進めていく中で、こういった大綱や学力向上アクションプランを変更する必要があるところにおきましては、適宜提案をしていきたいと思っている次第でございますが、本日は、まず教育に関する具体的な政策や課題についての議論を深めさせていただきたいと思っております。

教育に関しての施策、取り組むべき課題は多くあるんですけれども、本日は朝明中学校と四日市独自の教育プログラム、この2つを取り上げさせていただいております。まず、これらに対する私の考え方を皆様方にお伝えさせていただくとともに、それを踏まえて、皆様から、さまざまな角度からのご意見を頂戴したいと思います。そういった中で議論を深めていき、教育における重要な施策、課題をよりよい方向に進めていきたいと考えております。委員の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

○館政策推進部長 市長、どうもありがとうございました。

それでは、他の委員の皆様方、ご紹介をさせていただきたいと思っております。名簿にもございます。葛西教育長でございます。

○葛西教育長 葛西でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○館政策推進部長 それから、渡邊教育委員でございます。

○渡邊教育委員 渡邊でございます。よろしくお願いいたします。

○館政策推進部長 それから、加藤委員でございます。

○加藤教育委員 加藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

- 館政策推進部長 杉浦委員でございます。
- 杉浦教育委員 杉浦です。よろしくお願いいたします。
- 館政策推進部長 松崎委員でございます。
- 松崎教育委員 松崎と申します。よろしくお願いいたします。
- 館政策推進部長 どうぞ、よろしくお願いいたします。

### 3 朝明中学校について

○館政策推進部長 それでは、早速、議題に移らせていただきたいと思います。事項書の3というところ、朝明中学校についてでございます。

これまで、教育委員会におきましては、本日の資料でも課題の部分は抜粋させていただきましたが、朝明中学校の移転建替基本構想というものの策定に向けた取り組みを今年度進めてきたわけでございます。

一方で、朝明中学校への対応につきましては、市長の強い思いもございます。そういったことから、本日、これを議題にさせていただいたところでございます。

まずは、市長から、朝明中学校に対する基本的な方針と考え方につきまして、この場で改めてご発言をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○森市長 朝明中学校についてでありますけれども、私は市長選挙の際にも、これまで市、教育委員会が進めてきていた移転という方向から、それを中止するという方針を掲げて選挙を戦わせていただきまして、所信表明におきまして、そういった方向性の発言をさせていただいております。

具体的にどういった経緯で、どういうふうな思いがあるのかというところをお話ししていきたいと思いますが、まず前提として、これまで大矢知地区、そして、朝明中学校区の教育環境課題があるということ自体も、私は承知している次第であります。そして、それを解決していく必要性についても、私は理解をしております。

それを踏まえてですけれども、以前、（仮称）大矢知中学校新設事業の予算が議会で否決をされました。そういった中で、それらの問題解決をしていくためにどうすればいいのかという議論の中で、中学校移転建替の方針が示されたという教育委員会のご苦労も承知しているところであります。

そういった前提を踏まえての話ですけれども、まず、今回の朝明中学校の移転に関しては、基本的に大きく5つの課題解決を図るための方策として進められてきたという経緯が

あります。

まず1つは、人口2万人の大矢知地区に中学校がないということですね。そして、それによって大矢知地区の子どもたちが4つの地区外の中学校に分散しているということ。そして、3つ目は、そういった経緯から、大矢知地区の子どもは、遠距離の自転車通学をしているということがありました。これら3つですね。もう一つは、朝明中学校の施設の問題。最後の1つは、大矢知興譲小学校の施設の問題であります。この大きな5つの課題があったと思います。

まず、課題を一つ一つ整理していきますと、例えば最初に掲げた3つの課題、2万人の地区に中学校がない、地区外の4つの中学校に子どもたちが通っている、また、遠距離自転車通学をしている、こちらは大矢知地区の課題だと思っております。この3つを解決していこうということで移転ということが実現していくとなると、一方で、2万人の地区に中学校はできるけれども、1万3,000人を抱える八郷地区に中学校がなくなってしまう。

もう一つは、中学校は大矢知地区に移転するんですが、基本的に学区の整理というのはいわゆる行わない状況で、変更がない形で移転しますので、1つの地区内の中学校と3つの地区外の中学校に生徒が分散してしまうということ。ですから、分散するという実態は変わらないということです。

3つ目は、大矢知地区の生徒にとっては近距離になるため、遠距離自転車通学はなくなるけれども、一方で、八郷地区の子どもたちにとってみれば、近距離から遠距離に変わって、自転車通学を強いられる子どもも出てくるということなんですね。

まず、この3つに関して整理をしていくと、大矢知地区の課題自体は、一定程度解決をするけれども、これを解決することによって、他方にも別の課題が生じてしまうということなんです。ですから、教育の機会の均等や平等性、公平性の観点から見ても、この方策は一考すべきという考えを持っております。この課題3つは先ほど整理させてもらって、あと残り2つですよね。朝明中学校の施設の問題と大矢知興譲小学校の施設の問題になってきます。

まず、大矢知興譲小学校については、児童数の推計を見ましても、これからどんどん児童数が増えていくということになっております。ですから、大矢知興譲小学校の将来的な施設不足の対応というのは喫緊の課題であるということは、私は認識しております。

一方で、朝明中学校の生徒数の推移を見てみますと、今後10年間は600人弱の生徒

で推移していくわけです。しかも、ピークはもう過ぎているという状況でして、私は、この2つの施設課題については、小学校の課題と中学校の課題を一体に捉えるものではなく、それぞれ切り離して解決を図るべきと考えております。

そもそも、朝明中学校を移転させて大矢知興譲小学校のキャパシティーの状態を緩和していくという方策をとっていましたが、要は、朝明中学校の施設を借りながら大矢知興譲小学校の飽和状態を解消していくという状況でしたけれども、一度整理をして、大矢知興譲小学校の施設が飽和するという、こういう課題は、大矢知興譲小学校単独で解決していき、朝明中学校自体の飽和状態というか、生徒数のキャパシティーの問題というのは、ピークよりも下がっていくし、今後も大きな増加を見込めない、見込まれないということから、整理して考えていくべきなのではないかというスタンスをとっております。

さらに、朝明中学校の生徒数は、先ほど600人弱で10年間は推移するという話をさせていただきましたけれども、四日市の公立中学校は22校あります。この22校の中で、数字上ですけれども、例えば校舎面積とか、運動場の面積、朝明中学校が、ピークは過ぎたといえど、今、最も四日市で深刻な状況を抱えているのであれば、それは手当てをしなければいけない状況であると思いますけれども、この22校の生徒1人当たりの校舎面積とか、運動場の面積を算定しますと、実は、今現在で最も小さい学校というのは常磐中学校になります、1人当たりの面積が。次に山手中学校という順番になり、3番目に朝明中学校がくるわけですね。ですから、施設の問題はあるものの、市全体を見渡してみると、その重要度から考えると、3番目の中学校ということになります。

これも再度申し上げますけれども、市内中学校に対する公平、公正なサービス提供の観点からも、3番目の中学校に対して、まず優先的に着手していくというのも問題があるのではないかという私には思いがあります。

先ほども申し上げましたように、大矢知興譲小学校については、今後10年間の推移を見ても、大幅に児童数が増えており、喫緊の課題と捉えていると申し上げました。ですから、校舎の改築も含めた単独での教育環境改善を図っていきたいと思っております。

一方で、朝明中学校に関しては、当初には近々大規模改修の予定がありました。この大規模改修で現在の課題を解決していくことができるのではないかと考えている次第であります。

いずれにしても、少子化が進む中で、大矢知地区だけでなく、全市的な中学校の配置のあり方について、さらに議論を深める必要があるのではないかと考えております。それ

が、大矢知地区を含む全市的な教育環境課題の解決へつながるものであって、公平、公正なサービスであると考えます。

こういった総合的な見方もありまして、今回、私は、大矢知興譲小学校の単独の解決、施設課題の解決に当たって、朝明中学校においては移転をせずに、現状の位置での課題解決を図っていくことがベストではないかと、こういう思いを持っております。

**○館政策推進部長** 市長、ありがとうございました。市長から、選挙の段階からを含めたご自身のお考えを述べていただきました。委員の皆様方もいろんなところで聞いていただいていると思うので、所信表明と同じお話をさせていただきました。大きく5つの問題点の中で、それぞれ問題解決の問題点といいますか、その辺もお話いただきました。

一方で、教育委員会におきましては、資料において抜粋させていただきましたが、基本構想の策定の中で、教育環境課題についてつぶさに調査をしております。資料に基づきまして、事務局でご説明をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

**○長谷川教育総務課長** 教育総務課長の長谷川でございます。どうぞよろしく願いいたします。

お手元の資料、平成28年の第2回総合教育会議資料、朝明中学校移転建替基本構想（案）一部抜粋という資料に基づきまして、その課題につきましてご説明をさせていただきます。

先ほど、市長のご発言にもございましたが、改めまして、資料に基づきまして、朝明中学校にまつわる教育環境課題についてご説明をさせていただきたいと思います。

資料をめくっていただきまして、抜粋でございますので、9ページとなっておりますが、朝明中学校区の教育環境課題に係る検討の経緯という中で、まず1番といたしまして、（仮称）大矢知中学校新設事業というところでございます。こちらは平成21年度から、大矢知地区における教育環境課題の解消のために教育委員会で検討を進めてまいりました。その中で、先ほどご説明もいただきましたが、5つの課題というところで、下の囲みでございます。（仮称）大矢知中学校新設事業における大矢知地区の教育環境課題というところで、まず1番目、人口2万人の行政区に中学校がないというところでございます。市内24地区のうち、人口2万人、大矢知地区でございますが、他の人口1万4,000人以上の地区では中学校の立地がございますが、大矢知地区は2万人でありながら中学校が立地していない。その中で、そういう不公平感、不満というところが存在するというところでございます。

また、2つ目でございますが、地区の中学生が地区外の4つの中学校に通学するという課題でございます。これは、大矢知地区内に中学校の立地がないということによりまして、地区外に子どもたちが通っていくわけですが、大多数の生徒は朝明中学校、そして、一部垂坂地区の子どもたちは山手中学校に学区がございます。それから、後でご説明いたしますが、蒔田、松寺、西富田というあたりの子どもたちが富洲原中学校に学区外通学をするということで、結果として、子どもたちが4つの地区外の中学校に分かれて通学しております。そういうことによって、郷土教育や地域社会教育活動、また、中学校を拠点とした地域行事や活動の支障、コミュニティーの一体感や、まちづくり、地域づくり活動における地域の団結力を弱める要因となっておりますという課題がございます。

また、3番目でございますが、遠距離自転車通学、これは大多数の子どもたちが朝明中学校へ通うわけですが、地区外、遠いというところで、9割を超える生徒が自転車通学、その負担、交通面、安全面の課題というところが課題でございます。

そして、4つ目、10ページでございますが、朝明中学校の学校施設不足というところでございます。朝明中学校は、平成23年当時の数字で740名、現在は、平成28年の5月1日現在で659名という数字でございますが、大規模校というところで、体育館、運動場の配当時間、それから、少人数教育のための普通教室の確保が困難、また、音楽室や美術室などの特別教室の不足というところ、そして、部活動におきましても、活動場所の確保が難しく、活動の実施に支障が生じているという課題がございます。

そして、最後、5番目でございますが、大矢知興譲小学校の施設不足。大矢知興譲小学校につきましては、平成23年当時、834名というところですが、平成28年度5月1日は773名というところがございます。大規模校でありまして、運動場等の用地不足、普通教室の不足の課題というところで、当時からこういうふうに整理をさせていただいておるところでございます。

資料をめくっていただきまして、抜粋でございますので、22ページでございますが、朝明中学校及び近隣校の生徒数の推計値、それから通学区域ということで地図を載せておりますので、簡単に、朝明中学校区の概略といいますか、概況でございます。網掛けをしてあるところが朝明中学校区というところで、北の部分、上の部分が八郷地区、そして、下の部分が大矢知地区というところがございます。そして、校区内に立地としては、朝明中学校、それから八郷小学校と大矢知興譲小学校がそれぞれ丸中、丸小というところで示してございますが、もともと朝明中学校区におきましては、隣の、白抜きでございますが、

西朝明中学校区、こちらと一体の校区でございました。そのほか、下野地区、八郷地区、大矢知地区の3つの地区の学校、その中で朝明中学校はほぼ中央に位置しておったわけですが、昭和50年代に、子どもたちの増加から、西朝明中学校区が分離をいたしました。その結果、朝明中学校は校区の西端に寄るといいうことがございまして、また、昨今の矢知地区の人口増加から、人口バランスと学校の配置がアンバランスの状態といいうことでございます。

その影響もありまして、一部網かけで濃い部分でございまして、蒔田、松寺、それから西富田町、大矢知興讓小学校区でございまして、朝明中学校区でございまして、一部の子どもたちは富洲原中学校、それから富田中学校へ学区外通学をしているといいう状況でございまして。

そして、23ページでございまして。

今後の10年間の児童・生徒数推計の数値をグラフ等でお示しさせていただきます。まず、朝明中学校でございまして。現在の数値から将来10年を見渡しますと、おおむね550から600人という推移でございまして。若干は減少傾向がございまして、その後、35年か36年以降、増加傾向となっております。この先、また後でご説明いたします大矢知興讓小学校の児童数の増加の影響を受け、600人を超える生徒数となることが予想されております。

そして、23ページの下部分、大矢知興讓小学校でございまして。こちらは今でも700名という大規模校でございまして、昨今の宅地開発、人口流入といいうところで、その推計値におきましては、平成38年度に975という推計値のグラフがございまして。24ページにその説明のところを書いてございまして、大矢知興讓小学校の児童数は、いずれの推計においても32年度以降増加をするといいう。特に、この最新の平成28年の推計は増加傾向が顕著でありまして、将来的には900人を超え、普通教室の不足が予想されております。

その原因といたしましては、下に表でも掲げてございまして、ゼロ歳児から2歳児の増加が顕著であるといいうところ、特に、その下の真ん中あたりの表におきまして、ゼロ歳児、1歳児、2歳児の大矢知興讓小学校区内の子どもたちの数といいうところで、これは通っておる子どもたちの数といいうものではございませんが、今、住民基本台帳票上、登録のある子どもたちといいうことで、2歳児までは約200人、3歳児から140から160といいう数字で推移しておりますが、特にゼロ歳児から2歳児が多いといいうところが今後の推計に

影響しております。また、大矢知興讓小学校区内の宅地開発面積は市内で2番目に多いという、そういう人口増加の原因もございます。

24ページ、下部分でございます。

八郷小学校の児童数推計でございますが、こちらにつきましては、現在400名程度というところでございますが、将来にわたりまして300から400、350から400の数字で推移して、若干の減少傾向、また、こちらは建てかえたということ、改築の状況もございまして、普通教室には余裕があるというところでございます。

そして、25ページ、近隣中学校の10年間の児童・生徒数の推移の見込みでございます。近隣、隣接します西朝明中学校区、それから富洲原中学校、富田中学校、羽津、山手、そういうところの推計を載せておりますが、例えば西朝明中学校でございますと、200台後半から300前半の推移、そして、富洲原中学校は若干の減少の懸念がございまして、200名弱になる懸念がございまして、富田につきましては大体300名から、そして、羽津につきましては500名台で安定して推移をいたします。また、山手中学校につきましても、大規模校でございますが、10年後は若干の、600人台ではございますが、若干の減少といえますか、そういう状況が見込まれるところでございます。

こういう中、改めまして26ページ、27ページで朝明中学校区の教育環境課題をまとめた資料のご説明をさせていただきます。

まず、先ほども申し上げました大矢知地区の教育環境課題といたしましては、人口2万人の地区でありながら中学校が立地しないために、地区外の4つの中学校に子どもたちが通学しておる。その結果として、地域コミュニティーの一体感やまちづくり、地域づくり活動における地域の団結力を弱める要因となっていることもございます。

また、大矢知地区の大多数が通う朝明中学校は地区から遠いために、9割を超える生徒が長い通学距離を自転車で通っており、生徒の負担が重く、交通安全面でも課題が多いと。そして、朝明中学校や大矢知興讓小学校では、生徒数の増加における学校施設の不足、特に大矢知地区において宅地開発の動向が顕著でありまして、ゼロ歳児から2歳児の増加の傾向、原因から、将来にさらに児童・生徒数の増加が懸念されるというところでございます。

そして、朝明中学校につきましては、先ほどもご説明いたしましたが、過去の校区の分離の経緯から、校区の西の端に立地しておりまして、八郷地区、大矢知地区を合わせまして、朝明中学校区全体で8割の自転車通学の状況、そして、遠距離の子どもたちが多く、

通学の負担が大きい、また、交通安全面から課題もあるというところをまとめてごさいます。

そして、施設課題でございますが、こちら、27ページに写真も載せてございますが、朝明中学校におきましては、これまでも生徒数の増加に対応するため、特別教室の普通教室への転用、それから、プレハブ増築によりまして特別教室の確保を図ってきております。現状におきましても、少人数のための普通教室でありますとか、音楽室や美術室の特別教室は不足しております。また、体育館や武道場につきましても、部活動に十分なスペースは確保できていないという状態でございます。

朝明中学校に通学する生徒数は、今後10年間で、おおむね550から600程度推移すると見られますが、大矢知興譲小学校の児童数増の影響を踏まえますと、その後600人を超えることが予想され、施設不足も深刻になるという懸念がございます。

27ページにはその写真もございますが、例えば体育館前の階段、それから校舎と特別教室を、これはプレハブの部分ですが、そちらをつなぐところには高低差、段差がございまして、スロープ等が設置できないという事情もございまして、車椅子等での移動が難しいところ。

それから、もう一つ、写真でもございますが、昇降口といいますか、校舎と校舎をつなぐ渡り廊下を兼ねておるところでございますが、そちらと、そこは子どもたちが学校に通学して昇降したり、それから校舎を渡ったりするところでございますが、そこを駐車場の配置の関係から車が通るといふ、そういう安全面での課題もあるという写真を掲載させていただいております。

もう一つ、大矢知興譲小学校の施設課題でございますが、現在700名を超える大規模校、これまでも、例えば南校舎、これは2階建てを3階に増設したという経緯、そして、北側にプレハブで多目的室等を建設しながら、普通教室や特別教室を確保を図ってきていふところでございますが、まず、この南校舎の増築部分の教室の一部の日照条件等が悪く、昼間に暗いというところ、それから、校地面積が狭いというところで、例えば体育館ですと、昭和58年度に校地外、市道を挟んで隣の敷地に増設しております。また、プールはもう少し離れて、三岐鉄道大矢知駅の南側の部分まで離れたところに設置しております。そのため、体育館へは階段式の渡り廊下を利用する、写真がございまして、かなり長い渡り廊下を利用している状況、そして、プールと校舎の敷地が離れておりまして、子どもたちがそこまで行って水泳の授業をするというので、その時間の課題等がござい

す。そういう円滑な学校運営に支障を来すような施設面での課題がございます。

また、大矢知興譲小学校区におきましては、平成28年度現在も宅地開発の状況がございまして、特にゼロ歳児、2歳児の増加が顕著でありまして、将来的には900人を超えると予想されておりまして、現在、敷地の、校地面積が狭いという状況もありまして、増築等の難しさというところもあるということでございます。

資料の説明は以上です。よろしくお願いいたします。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。冒頭、先ほど市長から述べていただいた5つの課題、それについてもきちっと整理してある内容の報告書の中の抜粋をいただきました。

このように、教育委員会としては今年度の予算も使いながら、これまでの課題なども整理をしてきた。そこに市長の新しい考えを冒頭述べていただいた。これらをうまく融合させていかなければならないという思いがございしますが、まずは、今、両方の話もお聞きした中で、各教育委員から何かご質問なり、あるいはご意見なりをいただけるとありがたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

**○渡邊教育委員** 私、現在3期目に入りまして、実は私、教育委員にさせていただいて以来、ずっとこの大矢知地区の環境課題というのは、大矢知興譲小学校の施設不足の問題がさらに増えるという予想、それから、朝明中学校の問題、非常に長くかかわってまいりましたね。1つの解決方法というのが、一番最初には、中学校を新たにつくるということがございました。それが否決されて、それでは、どうしようかというので、新たにまた、朝明中学校の移転、新設というような代替案というところですね。ずっとかかわってまいりました。

そういうような思いもありまして、やはり一日も早く、大矢知地区の教育環境課題、それから、朝明中学校の問題、非常に長い通学距離、それから交通安全の問題、そういうようなものを一日も早く、やはりできるだけ早く解決をしていただきたいと非常に強く思っております。

しかしながら、先ほど市長の冒頭のお話を聞かせていただいて、この点については、やはり一旦、この手法についてのひとつ再検討というようなことはおっしゃられたけれども、課題についての認識は、私どもと軌を一にするといいますか、共通の認識なんだなということ、私、若干の安心感を持って聞かせていただいたということなんですが、一日も早く解決するためにどうしたらいいのかという問題ですね。そのところを、ぜひいい方向

を目指したいという思いを非常に強く持っていますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

○館政策推進部長 ありがとうございます。渡邊委員から、やはり長い間やってきて、一番困っておるのは子どもたちではないかと。だから、早くその課題を解決する、手法は違えどもということ。

市長、いかがですか、その点について。

○森市長 そうですね、これまで教育委員会におきまして議論されてきました大矢知地区とか朝明中学校の問題というのは、私もほんとうに課題として理解しておりまして、できる限り早く解決していかなければいけないというスタンスは全く同じであります。その上に、教育の機会均等、平等性、公平性が保たれなければいけないという、私も考え方を持っておりまして、それを入れ込んだ解決策が、移転は行わずに、中学校と小学校を別に考えて、まず大矢知興讓小学校の施設不足の課題解決を図るべきだという考えに至っております。

大矢知興讓小学校につきましては、先ほども申し上げましたように、児童推計を見ても、普通教室等の不足が現実的なところでありますので、今後、校舎の改築も含めまして、課題解決の手法について調査研究をもう直ちに着手していく、行っていく必要があるのではないかと考えております。

ぜひとも教育委員会のほうでもご議論いただけるように、次回の総合教育会議で再度ご協議をいただきたいなと思っております。

○館政策推進部長 ありがとうございます。いかがでしょう。市長、認識は一緒ということですね、課題の。そのアプローチの仕方が違う。ただ、2つを分けて考えていくという新たな発想を市長として取り入れられた中で、まず何か取り組んでいかなければいけないということだと思ひます。よろしいでしょうか。

ほかにいかがでございましょう。

○杉浦教育委員 私も市長のお考え、思ひを聞いて、教育委員会との意見が違っていない、対立していないということが確認できた場になったということで、非常に安心をしたというのがまずあります。

先ほどの市長のお言葉の中にも、本日の資料の中にあります朝明中学校の移転建替基本構想の課題も触れていただきましたので、今まで、それこそ平成21年から教育委員会のほうで、課題の洗い出しであったり、整理、それに伴う検証をしてきたということにつき

まして、一定の理解というか、認識をしていただいているという、そういう理解でよろしいですよ。

ですので、教育委員会の中では移転をというような結論には至ったわけですが、それをそうではなくて、しっかり予算をつけていただきながらの大規模改修にということになると思いますが、あくまでもこの地区が抱えている課題に対する課題解決のアプローチが違ふんだというような認識でよろしいですよ。

**○森市長** そうですね。先ほど申し上げましたように、課題自体は、私も共通認識をしているという立場であります。

先ほど、大矢知興譲小学校については、改築を含めて調査研究を行っていくと、直ちに着手していくという方針をお示しました。

次に、朝明中学校の課題解決ですけれども、先ほど、キャパシティーの問題ではピークを過ぎて、今、生徒数は減っているという、また後ほどじわりじわりと増えてくる傾向にありますけれども、いつきの生徒数に比べては、大きく今減っている状況ではあります。

ただ、教育環境課題の整理にもありましたように、校内の段差の問題や生徒の安全面の問題というキャパシティー以外の問題もあるわけですので、この部分については、この朝明中学校、今の場所で大規模改修、近々予定されております大規模改修の時期も視野に入れながら、検討していきたいと思っております。

また、全市的な中学校の適正化の観点からも、教育委員会の皆様とともに、また課題解決に取り組んでいきたいと思っております。ですから、今回、いろいろ準備してもらったこの資料、データも含めてですけれども、これからの検証に十分に活用できるとも思っておりますので、ぜひとも大矢知興譲小学校の課題、朝明中学校の課題というのも一つ一つ整理した上で、一つ一つ慎重にじっくり、スピーディーにということもありますけれども、進めていきたいと思っております。

**○杉浦教育委員** 調査研究にもまた新たにも着手していただけるということですが、ほんとうによりよい教育環境を一日でも早く市内の子どもたちに提供できるということを目標に、今まで教育委員会の中でも検証を続けて積み重ねてきました結果も、ぜひ取り組みのベースに考えていただきまして、ほんとうに市内の教育環境の課題、なかなかすぐに改善まではいかないにしても、緩和、そして解決に向かっていくように、ぜひお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**○森市長** お願いします。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。杉浦委員からは、これまでの教育委員会の議論であるとか、あるいは経緯ということをきちっと踏まえた上で、今後の取り組みをというご意見をいただいたと思います。

市長からは、小学校についてどういったことをやっていくか、それから、朝明中学校についてはどういう方向でいくかと、一旦、方向性を少しお示しいただきましたけれども、今後、もう少し、事務局のほうでその辺は詰めていかないといけないなという思いはございます。

その他はございますでしょうか。

**○松崎教育委員** 私は、保護者の立場から申し上げることがあればと思いますが、親としては、とにかく子どもたちにできる限りいい環境のもとで学ばせてやりたいというのが、とにかく子どものためにということを第一に考えていかないとというふうに思いますし、また、四日市公立ということで、どの学校も同じような環境に近ければありがたいなと。せめて自分のところはもう少しというふうに考えている親御さんも多いと思うんですが、そういうことで、やはりまず大矢知興譲小学校、それから朝明中学校も、それぞれ改築をすれば、何とかいい方向に向かっていくのではないかというお話だったんですが、予算の面で、以前、市長は、55億かかると、例えば移転した場合。でも、今回、大矢知興譲小学校をよりよく、また朝明中学校もさらに、施設不足やら何やらというのを解決するためには、さらにもう少し、55億を超えてしまうんじゃないかという不安がありまして、それを全て、将来の子どもたちが税金を負っていかねばいけないというそのあたりは、素人目で見れば、50億でうまくいくのであれば、そっちのほうが良いのではないかとというふうに思ってしまうんですが、そのあたりのめどというのは将来的に見てどうなのかなという点と、あと、やはりもちろん大矢知興譲小学校と、それから朝明中学校、市長がおっしゃるように解決していくのがいいと思っていらっしゃる方は大勢いらっしゃいますが、それ以外に、大矢知のお子さんとか、あるいは今通っていらっしゃる子どもさんとか、実際通わせている保護者の意見というのは、どれぐらいほんとうに、今、どれぐらい困っているとか、そのあたりの意見ももう少し聞いていただいたりして、地域の方ももちろん理解ができて、そうした保護者と子どもたちももっと意見を持っていると思いますので、そのあたりもしっかりと聞いて方向性を考えていただければなと思います。

**○館政策推進部長** どうでしょう、市長。

**○森市長** そうですね。まず、55億の財政面の数字が出てきたと思います。朝明中学校

を移転することによって55億以上かかるというのが大前提でありまして、先ほど申し上げましたように、たとえ55億かけたとしても、大矢知地区の課題自体は解決できるけれども、それに伴って八郷地区の課題が発生してしまうと。ですから、完全に解決できない状況の中で55億円以上の税金が投入されることに対して、私はすごく違和感を、今、感じている次第ですね。

やはり、あと小学校の課題、中学校の課題、それぞれ解決していくことになると思います。もちろんですけども、この55億を超えない財政負担で解決したいというのは大前提であります。教育委員会が出してきた試算におきましても、それが実現できるという数字も出てきておりますので、こうした部分も含めて、今から財政面も含めて検討していかなければいけない部分ではあると思います。

しかも、移転で解決していくとなると、中学校の施設に小学校の機能を入れるわけですね。本来ではイレギュラーな解決策であります。ですからやはり別々に解決することが、小学校の環境にもいいし、中学校の環境にも私はいいと思います。しかも、道路をまたいで行かなければいけないという、そういう状況をあえて55億円かけてつくるのかということもありますので、この部分については少し、55億円投入するものではないなというのがあるので。ただ、55億ということを基準にして、小学校の解決、中学校の問題解決の財政面も慎重に考えていきたいと、これは思っています。

あと、保護者の意見ですけども、おそらく保護者の意見というのは、今まで教育委員会がまとめてきたこの課題に集約されている部分もあると思います。まだ、私自身も拾わなければいけないところがあると思いますけれども、この課題を解決していくことが、まず1つ、保護者の皆様方の意見を尊重していくことになると思うので、中学校を移転すると想定していたスケジュールに大幅におくれない形で、別の小学校、中学校での措置をしていきたいと思っていますので、当初の予定を大きく遅れない形で実行していくというのはお約束していきたいと思っています。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。もちろん財政面もちゃんと見た上で、あとスピード感ということも含めてということで、今市長からお話いただいたと思います。

よろしいでしょうか。ほかは。

**○加藤教育委員** ちょっと話は逸れますけど、先ほどからこういう議論をずっと聞かせていただき、改めて、地教行法が改正をされてもう3年になりますかね、年が明けて。いわゆるこの総合教育会議なるものができてよかったなというような実感をしています。

新しい市長をお迎えしても、朝明中学校の課題は認識していただけるだろうと思いましたが、手法というかアプローチの違いは明確でしたので、これもこの場で、教育委員だけでお話をしてもなかなか前へ進みませんし、こういったオープンな場で市長と我々教育委員がきちっとお話し合いができるというのは、ほんとうにいい制度ができたなと思って喜んでいます。ほんとうにありがとうございます。今後ともこの場で、ぜひ教育の大綱的なお話、あるいはまた個別の、いわゆる子どもたちのためのお話、ぜひぜひ話題にして、やっぱりよりよい教育が四日市でできるようにお願いをしたいと思います。

子どもたちというのは、どんな環境であっても、今置かれた環境で一生懸命頑張ってくれています。それを取り巻く、いわゆる保護者、あるいは地域の方々、そして先生方、教職員ですね、そういった方々というのは、今ある人的な、物的な資源を最大限に生かすような取り組み、あるいはそれを子どもたちの支援に向けるような活動を日々重ねてやってもらっています。ほんとうにありがたいことなのです。

だから、今回の朝明中学校の問題は先ほどお聞きしたとおりで、ぜひ早急に、子どもたちの目線でもって解決するべきところを、きちっと解決を図っていきたくと思いますけれども、市長は街頭に立たれるのが非常に得意でございますので、ぜひぜひ教育現場に足を運んでいただいて、保護者の方、教職員、直接児童、生徒の声も吸い上げていただいて、初めはこうしてほしい、ああしてほしいという声がたくさん出るのかと思いますけど、もう一步進めると、やっぱり本質的なものがたくさん見えてまいりますので、ぜひぜひ、それを一つのシステムとして、こういう機会を年間何回かはきちっと設けられていますよという、そういう制度としてできるとありがたいなど。

市長のキャッチフレーズであります、元気とか、やる気とか、あるいは喜びとか、根気、負けん気というこの感性的な力というのは、子どもたちも保護者の方々も地域の方々も、そして、また、それを直接指導する教職員にも非常に大事なことだと思いますので、そういう感性的な市長の馬力、エネルギーでもってやっていただくのもいいのかなと。要望でございますけど、ほんとうにありがとうございます。

**○森市長** ありがとうございます。後半、激励になっていましたけれども、ほんとうに私も総合教育会議の場で、こうやって教育委員の皆様方と直接意見が交わせるということは、すごく有意義なものだと感じております。多少緊張してきたわけですがけれども、ほんとうにいろんな意見をいただきましたし、私の思いも伝えることができたので、ほんとうにありがたく思っております。

私も2人の子どもを持つ父親でして、やはり教育や子育て環境における機会の均等、平等性、公平性というのを担保しながら、教育の施策についていろいろ進めていきたいというのがあります。「子育てするなら四日市」、「教育するなら四日市」というスローガンを掲げて市民の方々に訴えてきたわけですが、これをずっとずっと発信し続けていく立場でもありたいと思っております。

松崎委員からもありましたけれども、保護者の気持ちを酌み取っていくように、また、現場の気持ちを酌み取っていくようにと、意見を酌み取っていくようにという意見をいただきました。私も突っ込んでいくのは得意なほうなので、学校現場においてもできる限り足を運んでいきながら、皆様方、教職員の皆様方とか、そこで学校関係者の皆様方と意見を交わしたりとか、私の意見も伝えたりとか、そういった機会もこれからつくっていきたいと思っています。現場の意見全てが受け入れられるかどうかわかりませんが、できる限り酌み取れるような形で、朝明中学校の課題についても、大矢知興譲小学校の課題についてもクリアにしていきたいと思っておりますので、また次回のこういった会議の場でも提案させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

**○加藤教育委員** ほんとうにお忙しい日程の中でも、それこそ年間計画の中に幾つかはきちっと続けていただいて、教育について市民の声を聞く場というのをぜひぜひ考えていただくと、31万人おみえですので、なかなか全部を吸い上げるのは大変でしょうけど、ほんとうに定期的にきちっとやっていたら、我々も安心しますし、ありがたいことだと感謝しますので、ぜひぜひお願いをしたいと思います。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。これは新市長の得意とするところで、現場のほうへどんどん行っただけということ、後のスケジュールのところでも少し説明させていただきます。

**○葛西教育長** 今この場で、市長から新しい宿題を教育委員会にいただきました。1つは大矢知興譲小学校の改築を含めての検討、これは、調査をしっかりとするというふうな、そういう方向性を出してくれと。これは確かに、小学校については、学校の敷地の狭さから体育館、プールが敷地以外にあると。それから、校舎も繰り返し繰り返し増築してきていますので、非常に使い勝手が悪いと。そういうことも含めまして、どのような絵を描いていけばいいのかということをしっかり私どもは考えて、次回、やはりこの場で議論できるような、そんなふうなところへ1つ行くのかなということをおもっております。

それから、もう一つ、朝明中学校、これはこの場所で考えていくと。朝明中学校の今の

場所で考えていくと。大規模改修も、今持っている段差の問題、それから子どもの安全の問題、昇降口ですけれども、これらについてもあわせて解決を図っていくような、そうした大規模改修をとという方向性をお示しいただいたのかなというようなことを思っております。この大規模改修についても私どもも整理をしていくと。

それから、加えて、市長からは、四日市全体の適正化の中で朝明中学校の問題についても考えていくようにという、そういうご指摘もいただきました。それは確かに、私ども、児童数、生徒数の変化は常に注視していかなければなりません。その意味で、毎年推計をとり、宅地開発等についてもしっかり把握しながら、児童、生徒の増加の傾向を中長期的に見ていって対策を打っていくということできています。

現在、四日市の学校規模等適正化検討会議、これも本年度再び立ち上げて、継続して議論をしているわけですが、この中でもやはり中学校については、周辺校を含めた広域的な視点から配置や規模などの適正化について考えていくと。

それから、この報告書の中では、市域全体をいろいろブロックで考えて、適正化等についてもしていったらどうかと、そういう提言もいただいておりますものですから、そういうことも含めまして、適正化の中で今後もしっかり見ていかななくてはいけないなということをお思っております。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。今、まとめていただいた感じがありますけれども、皆さん、どうでしょう、ほかにございませんでしょうか。

**○加藤教育委員** 確かに、適正化の中で小規模校がよく対象になっていきますけれども、市長、冒頭おっしゃられた常磐、山手、あるいはそれに隣接する羽津にしても、朝明も1校ですけど、大規模校での、あるいは小学校だったら常磐西小学校も大矢知以上に大規模ですし、常磐小学校ももちろんですけど、だから、やっぱり大規模校の児童、生徒1人当たりの活動範囲なんていう尺度で見たら、ほんとうに不公平はありますので、ぜひぜひそういう視点からも、大事に適正化を考えていかななくてはいけないなというのを改めて感じています。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。

それでは、皆さん、大体一通りご発言をいただいたと思います。今日の一番の収穫は、皆様方の中で、大矢知の問題と朝明中学校の問題につきまして、課題をまず共有できたというか、確認できたということが今日の最大の収穫だと思います。

あと、その課題の解決に向けていろんなアプローチがある中で、市長は一定の方向、中

学校と小学校を別々に考えていくという方向性を示していただいて、その大きな流れについては委員の皆様方も、その手法は違えども解決に向かっていくということで、今日はご了解いただいたのかなと思います。

ただ、中学校、小学校を分けて考えていくことについては、もう少し私ども事務局側で、どういった、今、一旦、教育長からも述べていただきましたけれども、小学校はどのような方向性でいくのか、中学校はどのような方向性で解決していくのか。これらについて、今日、まだそこまでの議論に至っていないと思いますので、早急に事務局側で、それぞれ、小学校はどうしていく、中学校はどうしていくという、ある程度の方向性、それから今後のスケジュールなどを、大まかなスケジュールなども想定した上で、それらの資料をこちらにお示しして、それで、この朝明中学校区の問題は次回にそういう資料を出した上で、そこで協議を調べていくという方向にぜひ持っていきたいという思いがございます。

したがって、後でまた述べさせていただきますが、今回のこの朝明中学校区の問題につきましては、年度内に再度、総合教育会議を開催させていただいて、今申しましたような材料を事務局側として提出させていただいて、協議を調べていくというふうにしていきたいと思っております。今日、大体の方向性は皆様方からいただきましたので、整えるための下準備は今日できたのかなという思いでございますが、次回の総合教育会議でその辺を確定していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、この議題、朝明中学校につきましては以上とさせていただきます。

#### 4 四日市独自の教育プログラムについて

**○館政策推進部長** それでは、事項書4番でございます。四日市独自の教育プログラムについてでございます。

この議題につきましては、市長選挙のとき、それから、所信表明でも述べさせていただいておりますが、熱い思いを持っていらっしゃいます。そこで、今回、このテーマを議題として上げさせていただいたということでございます。

改めて市長から、四日市独自の教育プログラムというところについて、思いを述べていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

**○森市長** これは冒頭から申し上げているとおり、子育て・教育支援に対しても積極的に取り組む市の姿勢を、どんどん市内外にアピールしていきたいと思っております。「子育てするなら四日市」、「教育するなら四日市」という都市イメージをどれだけ定着させて

いくかがこれからの四日市の実際の活力につながっていくのかなと思っています。

例えば、例を挙げると、今、四日市は、四日市に入ってくる人よりも四日市から出ていく人のほうが多いという傾向にあります。これはどういうことかという、おそらく、四日市に定住しようという方が減っているということなんですね。定住しようという意思決定をするのは誰かといったら、やっぱり子育て世代だと思います。家を建てよう、どこで住もう、どこで子どもを教育させよう、そういった子育て世代に対して、やはり四日市は教育のまちだということをもっとわかってもらわなければいけないし、わかってもらえるような取り組みをしていかなければいけないと思っています。

現在、四日市市の教育大綱とか、四日市市学力向上アクションプラン等の作成で、これも四日市独自の教育プログラムを進めてもらっているわけですが、さらにより一層の独自性というのも出していかなければ、これからの自治体間競争を勝ち抜いていけないのではないかと私は思っております。それから、豊かな人材づくりにいかにつなげていけるかという、学力の向上、体力の向上も含めてですけれども、そういったことを強力に推し進めていけるような四日市独自の教育プログラムを皆さんと一緒に考えていきたいなど、こういう考えであります。ですから、今日、こういった議題として上げさせていただきました。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。これまでもいろいろ独自の取り組みを四日市としてやっているわけですが、さらにこういう地方創生の中で、外から人を呼び込めるような、特に若い世代、子育て世代を四日市に呼び込めるような、そうした独自の特色ある取り組みをして、もっと頑張っていきたいという思いを述べていただきました。

そういう中でも、国でもいろいろと今後の、教育のあり方、方針というものが出てきていますので、これらについても一度、我々としては認識していく必要がございます。そこで、資料に基づきまして、一度、そのあたりの方向性をご説明いただきたいと思います。どうでしょう。

**○吉田教育監** 教育監の吉田でございます。

お手元の、先ほどの朝明中学校の資料の後に、数枚の資料をつけさせていただいておりますが、よろしいでしょうか。

まず初めに、次期の学習指導要領の改訂が、この28年度末までには行われて、公示されるという大きな流れがございます。それに伴って、今までの流れということで、文部科学省との関係で、中央教育審議会の部会の今後の学習指導要領改訂スケジュールというの

が示されておりまして、既に昨年の12月の時点で、中央教育審議会の答申まで進められてきているところがございます。周知徹底に1年間、そして、30年度から先に小学校の先行実施、それから中学校も先行実施をし、小学校については32年度から全面実施と、それから、中学校については33年度から全面実施と、そのようなスケジュールで流れております。

そして、次の資料は27ページというふうな感じで数字が書いてありますが、小学校の特に標準授業時数、これは改訂されることで、特に3年生、4年生に、下から2つ目にありますが、外国語活動、これが年間35時間増えます。それから、現在も5、6年生で実施しております外国語活動については、これはさらに35時間プラスアルファされて、年間70時間という形で示されております。それに伴って、3年生から6年生までは35時間ずつ、次期学習指導要領ではアップされる、つまり、1こまは全国的に増えると、そういう流れです。特に4年生から6年生までは年間1,015時間という形ですので、これはもう中学校の時間数と同じになってきます。

続いて、中学校のものが次にあります。中学校につきましては、現時点のものと変わりにくく進められていくという形で示されております。

このような中、次のページの資料でございますが、次世代の学校指導体制の在り方について（最終まとめ）、基本的な考え方というのが示されておりますが、現在の学校指導体制、いわゆる日本型学校教育というのは、非常に国際的にも高く評価されている制度である反面、大変いろんな部分で1人の教職員が対応していかざるを得ないというような状況も発生しています。

また、時代がだんだんとグローバル化し、しかも最近では、マスコミ等でもAI、人工知能等の飛躍的な進歩等があつて、それによって多分劇的に、社会生活が変わるんじゃないかというようなことまで取り上げられている状況がございます。

一方、国内というか学校内では、子どもを取り巻くいろいろな環境の変化がございます。そういう中で、次世代の学校、網掛けがしてありますが、一番左端に、今まで以上に子どもたちに向き合う時間を確保し、質の高い授業や個に応じた重点的な学習指導によりこれからの時代に必要な資質・能力を保障していくと、こういうことが大事だと、今後10年間の中でこれが必要だと。これは次世代の学習指導体制強化のためのタスクフォースという中で示されているものですが、それを、あと特別支援教育やら、コミュニティスクールの充実等が挙げられているわけですが、一番下のところに、学校指導体制の改善・充実、

この中で、特に下の黒丸のところの後半、太文字になっておりますが、10年程度を見通した、予算の裏づけのある教職員定数の中期見通しを策定というようなことで、その中にかかわって実現構想に盛り込むべき事項としては、小学校の専科指導の充実、特に高学年を中心という部分や、これも新聞紙上でたくさん出ておりますが、アクティブラーニングの視点からの授業改善、主体的、対話的で、深い学びの充実、こういうようなところが次期の学習指導要領で重点的に取り組まれる内容というふうになっておりますので、資料はご議論いただく中での参考にさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。事務局から今、ほんとうの一端ではございますが、国の大きな方向性についてのご説明をいただきました。この四日市独自の教育プログラムの議題でございますが、これは、本日を皮切りに、ある程度時間をかけて議論をさせていただきたいという思いを市長が持っております、今日はその1回目ということでございます。

ある程度、市長も四日市独自の取り組みを進めていこうというわけでございますが、やはり国の動きも横目で見えていかないといけないということもあって、この資料を事務局で用意させていただいたところでございます。

本日、議論の皮切りでございますので、自由にまず思い、何かございましたら、委員の皆様方からいただければなという思いでございますけれども、どうでしょうか。

**○渡邊教育委員** 私、前からずっと思っておりましたが、教員の疲弊感、これはもうほんとうに社会環境、それから家庭、子育ての環境は大変厳しくなってきていると、そういう中で、先生方は、本来教科指導、学習指導に当たるべき時間以外に、非常にたくさんの仕事を抱えておられると、そういうことが、さらに、場合によっては、ほんとうに子どもに教室で向き合うべき時間へのエネルギーを割いている、ほんとうに大変だと。そういうものがやはり、場合によっては悪循環になっていると。夜遅くまで先生方は仕事を抱えて、よい授業をするためのエネルギーが低下すれば、やはり教育の質も悪くなりますし、それから、精神的なストレスも大変だ。そこを何とかしないと、これは幾らノウハウが質的に高いグローバルな時代の人材育成のためのプログラムだといっても、現場はほんとうに大変になってくるばかりだという懸念が、私は非常に長く感じております。

そこを改善する、そのための手だてをつけられれば、先生方も質の高い教育、アクティブラーニングだとか、そういうようなことについて、さらに突っ込んでいい授業ができる

ようにしていただけるだろうと。なかなかそこまで手が回らないということもあるのではないかと、非常に私は、いろんな話を聞くたびに感じています。

ところが、そういう話になると、例えば文科省と財務省の予算折衝のやりとりなんかを見ていると、文科省はそう言うわけですよ、教員をもっと増やしてくれと。いや、子ども数が減っているわけだから、そんなに金を増やせるかと財務省は必ずそう言う。だから、そこでなかなか進まない。では、どうしたらいいんだろうという気持ちを非常に持っていますので、ぜひ何とかしたいなということです。

**○館政策推進部長** これは今までの教育委員としての実績の中でそういう思いを持ったんですね。

今、国は、先ほど報告があったように、コマ数を増やしていこうという動きがある中で、さらにそれが厳しくなるのではないかと、ということです。独自の教育をしようにしても、それがなくなるとどうかということです。

どうでしょう、このご意見に対して、何か関連してございますでしょうか。

どうでしょう、市長、何かこれを、これから地元に行ったりされるかも……。

**○森市長** そうですね。現場の疲弊感というのは私も耳にしておりまして、学校に足を運んで、いろんな方とまた話をさせていただきたいと思っておりますけれども、実際に私もいろんなことを要求する側になってしまったので、要求する一方でもだめなのかなと強く思っています。

これはまた後でお話ししようと思っておりましたけれども、ぜひとも、今後、こういった総合教育会議の場で、現場の教職員の事務負担の軽減についても、どういう手法があるのかとか、そうしたことも議題で取り上げて、要求するだけでなく、現場のことにも配慮しながら、より積極的に指導に取り組んでもらえるような環境づくりをしていかなければいけないのかなと思っています。

**○館政策推進部長** やっぱり何かをおこなっていくのは先生なので、先生が新たな独自の教育ができる環境もつくっていくというのが我々の務めかもわからないですね。そういった方向性もちょっと今後考えないといけないですね。

独自のものを考えていくに当たっては、単にあれをやれ、これをやれだけではないと、環境もつくりながらやっていく必要があるだろうということです。

**○加藤教育委員** 関連して、この市長の「子育てするなら四日市」、「教育するなら四日市」と、この実現に対して、こういう総合教育会議の場で、それに対するいわゆる外堀を

埋めるというのかな。それを支援していくような四日市独自の教育プログラムであっていただきたいなというふうに思うんです。

市長もおっしゃっていましたが、教育大綱にしろ、四日市の新しいビジョンにしろ、今さら文部省の新しい考え方を聞くまでもなく、四日市の場合は先取りして、きちっとこれに反映されていると自負をしています。また、そのとおりだと思います。

ただ、若干不安を感じるのは、やはり大綱を実現するためのベースといいますか、土台的な部分で、やはり先ほど出た、教職員の疲労感を少しでも軽減するようなシステムの導入というのも、これは立派な四日市の教育プログラムになっていくと思いますし、文科省は、先ほど渡邊委員もおっしゃいましたが、国はなかなか義務標準法の改正を出しても、財政で蹴られるという状況がありますので、せめて実現するまでは、四日市独自の人材支援も多少学校へ入れながら、英語教育なり、専門性の高い理科教育でありますとか、体育の授業も含めて、そういう力をかりると。四日市で施していく。今も、四日市独自の非常勤講師制度にしろ、たくさん支援をいただいていますけれども、そういう人的な支援も1つあるのかなと思います。

だから、教育の中身に関して、四日市独自のプログラムというのはもう既にできていますので、また、市長はそれを否定もされていません、継続してやりましようとおっしゃっていただいていますので、これから考えていく四日市教育プログラムなるものについては、それこそ議会の皆さん方の同意も得ながら、やっぱり人的、物的な外堀をきちっと埋めていくような、そして、それこそタイムスケジュール的に年度進行が図られるような、あるいは予算もそうなっていますよね、総合……。

○葛西教育長 総合計画。

○加藤教育委員 総合計画という格好で、5年間、10年間を見通したプランで予算執行もされていますので、ぜひとも教育大綱の実現のための5年計画、もう一ついけば、中長期的な10年計画というものが、予算的な裏づけもあって、進められるようなシステムをぜひ新しい市長にはつくっていただくと、これがまさに私が考える四日市の新しい教育プログラムであると思いますけれども。これは意見ですが、ぜひぜひこういう場で議論をしていただきながら、深めていただくとありがたいなと思っています。

○館政策推進部長 そうですね。おっしゃられるのは、教育大綱なりを進めていく独自の5カ年計画的なものがやっぱりないとということですね。

○加藤教育委員 あの政策の中には、教育予算を使うよという印はついてきますけど、あ

るいは5本の柱の部分でありますけど、ぜひぜひこの教育大綱が実現できるような、ほんとうにきちっとしたプログラムが。ちょっと弱いんですね、大綱ができていますけど。

○館政策推進部長 財政的裏づけということですかね。

○加藤教育委員 そうです。

○館政策推進部長 推進計画というのは総合計画に基づいてつくっていくものです。その中の1つの柱に教育の分野があるわけで、この分野においては、ハード面とか大きな事業は5カ年などで動いていきますけれども、なかなかその他のいろいろな目に見えないような経費はそこにはあらわれてきませんので、それは毎年毎年の予算で進められていきますので、そのあたりのギャップが若干あるのかもしれませんが。

○加藤教育委員 ただ、全体を見ての教育ですので。だから、教育の枠の中でやるのが、若干特別枠というものも設けながら、大綱実現のための予算措置を年度進行で図っていくと。それこそ教育大綱が自分のふんどしで相撲をとれるような条件つけをきちっとやっていただくと、ちょっと言葉は乱暴ですけど。そういうシステムがあると、着実に大綱実現、ビジョン実現が図れるのかなというふうに思いますね。

今まではそれはなかったです。それこそ予算がないとこれはもうちょっと先延ばしというような状態がずっと続いていますので、何か1つこれだけはやるぞと、それはほんとうに議会の同意もないとできませんので、そういう条件づくりのような土壌づくりをぜひぜひ市長、リーダーシップを発揮していただいてやっていただくと、我々、ほんとうにありがたいと。

○館政策推進部長 加藤委員から強い思いをいただいたと思います。ありがとうございます。

そのための総合教育の会議の場だと思うんですね。これまでは、市長は予算の権限を持っており、教育委員会はソフト事業の実行をしている。その中で別々で、今、この中で議論はしていけると思いますので、ぜひ、今後、このプログラムをつくっていく中でも、そういう予算的な裏づけもある程度想定しながらいかなければならないなという思いがします。

どうでしょう、何かほかにございますでしょうか。

○松崎教育委員 ほんとうにこういったすばらしい教育大綱にあわせてというか、のっとなって四日市の教育が進められていっているということは大変ありがたいことなんですけど、実際のところ、毎日生活している子どもたちや、保護者や、先生を含めてかもしれません

が、なかなかここまでは頭はいいで生活を進めているというところが正直なところで、実際現場で困っていることといえば、先生がそうやってばたばたと、とにかく忙しいとか、それ以外に、私の周りでもやっぱり貧困の問題とか、親御さんのいろんな問題を抱えた子どもたちの不登校やいじめやら、あと発達障害の問題とか、ほんとうに小さな小さな問題がたくさん山積みになっている状態です、これをやっぱり抜きには教育は語れないというところが現実だと思うんですね。

なので、やはり一つ一つ、これが、先生方もそれぞれに子どもたちを真つすぐ見て対応できるような環境をつくるということとともに、それぞれ先生も見てほしいという一方で、先生が見られるように、例えばこの英語だの、いろいろ新しく入ってきていますけれども、これもできれば、英語をやるんだったら、そんないじめを何とかというのもなかなかできませんので、スクールカウンセラーやら何やらというそれをもう少し、さらに充実とか、しかも、英語に関して言えば、小学校の先生がこれから英語にやっぱり、今もほんとうに大変そうにしているんですけれども、そのあたりももうちょっとしっかり予算もつけていただいて、英語専科でできる先生方をきちっとつけていただいて、英語は四日市のこういうプログラムで進んでいるんだということを出せるように。せつかくこんなたくさん時間をつくってもらっても、忙しい先生方、英語も苦手という方も多いと思いますので、それはもう早目にやっていかないと人材も育成できないと思いますので、しっかりとそれは早目早目に進めていただきたいなというふうに思います。

また、体力面もすごい問題にもなっていますので、やはり学力でいろんなところで劣っているというふうに言われていて、それなのに、教育するなら四日市と言っている、ちょっとあれと思われる部分もありますので、そのあたりは押さえながら独自の方法を歩んでいければなというふうに思いますので、お願いします。

**○館政策推進部長** やはり小学校の教科担任制、これは国が方向性を出している中で、現場の状況を見れば、早くやったほうが、専門の人を置いたほうが進むんじゃないかというご意見だと思うんですね。それは、あらゆる分野でも、カウンセラーの面でもそうかもしれません。いじめに対する問題もあるかもしれませんが。体力の面も述べていただきました。どうですか、市長、そのあたりは……。

**○森市長** 教育といっても幅広いと思っているんですけど、まず表側というか、数字で出てくる部分で、学力の問題とか体力の問題、やはり数字で出る以上は上げていくべきだと僕は思っていますので、そこにも取り組んでいきたいという思いもある。

一方で、不登校の問題ですよね。不登校児童・生徒の割合は、全国の県よりも四日市が高いという数字も出ているんですね。やっぱり見えない部分、なかなか気づかない部分というところの数字も、やはり数字にこだわって、しっかりと取り組んでいかなければいけないし、そういう取り組みが皆様方にわかってもらえるようなアピールもしていかなければいけないしと思っているんですね。

ですから、これまでの取り組みで、学力とか、体力も改善傾向にはあるんですけども、もっとぐっと、四日市だからという、四日市で教育させたからよかったというぐらいのインパクトがないとダメなので、この部分についてはもっとより力を入れていきたいので。現場の疲弊感もあるとは言いながらも、例えば私が授業のこま数を増やしたりとか、そういった部分も、なかなかこれまではアンタッチャブルだったところもあるんですけども、そういうところも考えていく必要もあるんじゃないかなと思います。

**○杉浦教育委員** お伺いしたいんですけども、今、新市長の中のお言葉にも、不登校のお話も出てきました。私が行っている大学でも専門のカウンセラーの先生に入っていて、不登校まではいかないんだけど、少し不安とか心配な学生がいたら、できるだけ早く、気づいた段階でカウンセラーにつないだりしています。その中で、カウンセラーの先生とお話をしていると、明らかな傾向としては、学生ではなくて、保護者とか家庭に問題があって、結果こうなっているというような事例が非常に多いと。そういった中で、初めは学生を窓口でカウンセラーに呼んでいただいたりするんですが、時間がたつと、学生ではなくて、保護者の方が長期のカウンセラーの対象になるというのが、ほんとうに強い傾向としてあります。

ただ、私が行っているのは短大なので、2年間しか保護者ともかかわりませんし、入学してすぐに私たちが発見できるわけでもないんで、時間が切れるんですが、卒業してしばらく保護者の方には来ていただくというような体制をしています。

その中で、なぜこの家庭は、さかのぼると、小学校とか中学校のときに端を発していたのに、なぜそのときにカウンセラーにつなげなかったのかなというような、そういう後悔に近い声とかも聞いたりするんですね。なので、今回、先ほどご説明の中で、教育現場で先生たちが子どもたちに向き合える時間を確保するためにというような視点もあったんですが、同じように、やっぱり家庭であったり、もっというと、もう少し広く地域が地域の子どもたちに対して観察をすとか向き合うとか、そういったところがやはり仕組みとして考えていかなければいけない時代なんじゃないかなというのがすごく思ったりもしま

す。

もし、そういったところができる、1人で自分が子どもを育てているというところもすごく多いので、よく「孤育て」という、「子」というのを「孤り育て」という字に置きかえて書いたりしますけれども、そういったところの不安を少しでも解消できるような、そういう市であれば、市長がおっしゃったような、四日市で子どもを育てる、「子育てするなら四日市」、「教育するなら四日市」というところの実現のほんとうに1つのアプローチだとは思いますが、そういったところにもつながるんじゃないかなというふうに思いますので、学校、家庭、地域の教育力を高めていくためにはどうすればいいのかというふうなところも考えていただきたいなというのが1つあります。

あと1つは、私も商業系の者なので、地元に残りたい子どもを育てるには、やっぱり地元で育てて、地元の資源を知って、地元で愛着を持つということがすごく大事だと思いますので、教育の現場の中にも、オール四日市で教育の分野以外の方々にも、教育に対して何か協力できないかなとか、資源とかノウハウを教育の分野で使ってもらえないかなというふうな、そういう意識が芽生えるように、ぜひオール四日市で教育のことを考えていただくとありがたいかなという、その2つをお願いしたいと思います。

**○加藤教育委員** 特に、私も後半の部分で、先ほど教育大綱の実現にはそれなりの支援のところを申し上げましたけど、ある意味、市全体で子どもたちの家庭を含めた土台をきちっとしてやること。だから、健康福祉部あたりの各家庭に対する支援でありますとか、それこそ税制面での子育て世代への優遇措置でありますとか、何かそういう大きな中で教育を捉えないと、ほんとうに杉浦委員がおっしゃられたように、子どもの問題かなと思ったら、実は家庭の問題であり、保護者の問題だったという事例が。心の問題でもありますし、やはり子どもたちが元気が出せないほんとうの理由は、朝御飯を食べて学校に来られなかった。家へ帰っていても十分な食事がなかったと、給食だけが頼りという子どもさんも現にみえますので、そういったところは、家庭に対する支援、生活保護があるやないか、あるいは就学支援制度もあるやないかとはいうものの、どっかでやっぱりきちっとした、親の就労の問題にしても、子どもたちが育つ家庭環境なり地域の環境をもっと整えるということも、やはり教育の実現にとっては非常に大きなことですので。グローバルな視点というのかな。あるいは、四日市の企業さんから力をもらう、地域の方々から教育に力をかしていただくというのはやっていますけど、さらにそれを含めて、オール四日市でという言葉もありましたように、オール四日市で教育を支えていく、それがやっぱり子育てする

なら四日市というところだと思うんですね。

○森市長 不登校自体が、教育的な問題だけじゃなくて、副的な要素をはらんでいる側面があると、四日市の不登校の生徒児童の割合が高いということは、教育現場だけじゃなくて、違った部分での問題を抱えている可能性も大いにあるということで、これをきっかけに、何かいろんな問題の解決に当てられる糸口はできるかもわからないですね。

○加藤教育委員 何よりも教育で大事にせないかんのは、信頼だと思うんですね、教育に対する信頼。この教育に対する信頼というのを、どんな手法でどう高めながら、深めながら、子育てするなら四日市をつくっていくかと。四日市の教育ってすごいよという信頼だと思いますので、それはまた保護者が求めるものは、確かに学力テストの結果でもあるかもしれませんが、すごい体力になるよという体力づくりとか、あるいは親にとって非常に病院も、いろんなところで気楽に子どもたちに十分な手だてが施されるという制度面でもいえますので、新しい市長にぜひ、子育てするなら四日市、これはほんとうにやっていただきたいし、ぜひ実現に向けて進みたいですね。

○館政策推進部長 議論していくときに、いいところを伸ばしていくようなところに焦点を当てたような政策を持っていくのか、それとも幅広く、漏れなくこれを四日市としてやっていくまちなんだということで推していくのか、ここは少し、いろいろ議論しなければならないですね。両方いくとなかなか、先ほどの話ではないですけど、予算の面もあるかもしれません。外に四日市は教育のまちだとアピールしていくときに、どこに焦点を当てると実は外部の人から見えやすいのかとか、その辺もあるかと思います。教育としては、多分両方やっていかなければならないと思うんですが、特に外にPRしていくときに、どっちに焦点を当てていくかというのが、少し今後議論をしなければならないかという思いが。

○葛西教育長 そうですね。ただ、私たちとしては、やっぱり子どもが自分の人生をたくましく切り開いていく、そういう力をこの四日市の保・幼・小・中の中で、やっぱり基盤となる力を子どもがつけていく、あるいは四日市はそういう子どもが学んでいく意欲、これをしっかり大事にしているという、そういうふうなところは、1つ大きな教育の中で大事にしたいなというようなことを思っています。やっぱり意欲がなければ、いろんな問題にぶつかったときに解決できていない。当然、学力の問題もあるんだけど、意欲によっていろんなことにチャレンジして行って、乗り越えていくという、そういうふうなことが非常に大きいかなというようなことを思うわけですね。

だから、今、四日市で子どもたちに意欲をつけさせていくとなってくると、やっぱり学習への関心や意欲を高めていく、それから、社会と関連づけていく指導をさらに充実していくというふうな中身が大事になってくる。そうした場合、四日市の独自、市長が言われた独自とは一体何なのかと言われると、1つには、コンビナート企業を中心として、本市の多様な物づくりの産業、今ここの方にも学校には入ってきていただいています。それから、JAXAの宇宙教育、これも入ってきていただいています。そういうことを契機にして、さらにこれらを広げて、子どもたちが、科学する心だとか、やっぱり理科に対して、そういうふうなことに興味関心を持っていくということも大事な切り口になるんじゃないかなということをおもいますね。

そのためには、どういう基盤整備をしていくのかというふうなことで、広く考える部分、それから、学校ではそのためにどういうふうにしていくのか。先ほど教科担任制という話も出たわけですが、理科の専科を小学校高学年からやっぱりきちっと入れて、そして、そこで実験や観察や、そして、自然に対して畏敬の念だとか、それから科学的な物の考え方だとか、そういうものをやっぱりきちっとやっていくというふうな、そういうふうなこともあわせて考えていく必要はあるんじゃないかなというようにおもいますね。

**○館政策推進部長** ありがとうございます。今の教育大綱の中に、いわゆる意欲とか態度の涵養というのが1つの大きな柱にある。

私は、森市長の元気、あるいは前向きな気持ちというのが、先ほど現場へ行くと言いましたけど、それ、1つ今回、子どもたちが意欲とかそういうのを持つということは、結局そのときに成績がどうであったかというのは別として、その後の人生において意欲を持っていける、新たなことを学ぶとか、勉強するとか、希望といった意欲を持てる子どもたちをつくれれば、それはどんどん、そのときの成績いかんでなくて、その後の人生にとってもすごくよくなるので、そういった点も、今、ご示唆いただいたかなと、そういうところをどう盛り立てていくか。この前の教育大綱の中でその方針は出したけど、具体のところは実はあまりなかったなど。意欲とか態度を涵養するということですね。そこは今回、森市長は体力ということもおっしゃっていますので、そういうところも含めて、今後議論していきたいなという思いもございます。

どうでしょう、何かそのほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、このテーマにつきましては、今日が皮切りでございます、これから徐々に深めていって、何とか来年度の予算のところまでには、具体的なものを1つ出していけれ

ばなという思いも事務方としては思っておりますので、ぜひ今後ともご議論いただきたいと思っております。ある程度、皆様方の考え方を今日出していただいて、市長の考え方も出していただきました。少し方向性が見えたと思いますが、また今後とも十分議論していただきたいと思っております。

## 5 総合教育会議における今後のスケジュール（予定）について

○館政策推進部長 それでは、この辺にこの項目はさせていただいて、5点目のところでございますが、今後のスケジュールという表をごらんいただきたいと思っております。

今後のスケジュールでございますが、本日2月1日ということで、開催させていただきました。

先ほど申しましたように、この朝明中学校の問題につきましては、総合教育会議の場で協議を早期に調えたいと思っております。そのための会議を次回、年度内に、3月いっぱいまでに行いたいと思っております。その場合の議題が、もちろん朝明中学校、それから、今回の教育プログラムについても引き続き議論させていただき、それと、アクションプランの進捗状況、これは定例的に毎年年度末に、あるいは年度初めには今のアクションプランの報告もしたいと思っておりますので、大きくこの3つについて、年度末に、3月までに総合教育会議を開かせていただきたいと思っております。

その他、その後、年度あけて、7月、10月といったところに大体開催させていただきたいという思いでございますが、少なくとも10月ごろの総合教育会議で、平成30年度の予算に向けて、ある一定の方向性の議論もしたいという思いがございますので、このようなスケジュールでやらせていただきますが、ただ、間が二、三カ月ずつあく場合もございますので、必要が生じた場合には、随時会議も開催させていただきたいと思っておりますので、どうぞご協力いただきたいと思っております。

このスケジュールに関しまして、何かご質問等ございますでしょうか。

この中で、市長は先ほど申しました現場にも赴かれるということでございますので、この合間で向かっていただいて……。

○森市長 報告もさせていただきます。

○館政策推進部長 そうですね、総合教育会議のときに。

その辺は少し調整しながらと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、よろしいでしょうか。これで基本的に事項書について進めさせていただきました。

## 6 その他

○**館政策推進部長** それでは、その他でございます。この点について、私からご報告をさせていただきますと思います。

いよいよ、29年度の予算に向けて、2月から議会で審議が始まります。その中で、まず教育委員会において、平成29年度と30年度、2カ年にわたって、食缶方式による中学校給食の導入に向けまして、基本構想、それから基本計画というものを策定していく方向で、今、議案を上げようとしています。これについては、先週、議員説明会の中で、第3次推進計画の中に位置づけたということも発表させていただいています。これを行っていくということを、まず1点、ご報告させていただきます。

それから、2点目、小中学校の普通教室への空調整備についてでございます。これも一定の方向性は、既に出していただいているところでございますが、これも森市長として重点的に進めていくという方向性も出していただいております。来年度、PFI方式による空調整備の事業を、今後予算化していく方向で考えているというところです。

この2つの事業ですが、これらについては、総合教育会議の場の議題にすることではなく、方向性は一にしていると思っております。ただ、新市長は重点的にこの2事業を取り組んで、一步でも早く進めていく方向であることをご報告させていただきます。

報告は以上でございます。

あと、その他というところで、市長。

○**森市長** 先ほど提案させていただきましたが、現場の教職員の方が相当疲弊しているということもあり、何とか市としてもこれに手を差し伸べることができないかと考えています。

この総合教育会議の場でも、現場の教員の事務負担軽減、事務に限らなくても良いと思っておりますが、現場の職員の方の軽減について、何かできる措置がないかと思っております。全国には先進的な取り組みもあるようですので、そういったところも踏まえて、何とか教育に専念できるような、教員するなら四日市と言われるような……。

○**館政策推進部長** いい教員が集まるのも大事ですね。

○**森市長** そうです。そういう取り組みもしたいなど。

○館政策推進部長 それでは、そうした負担軽減についても、今後この場で議論させていただく、あるいは市長も現場に行かれる中で、いろいろと現場の状況もお聞きになられると思いますので、そうした点も含めて進めていきたいと思っております。

それでは、ありがとうございました。皆さんのご協力によりまして、本日予定しておりました内容、全て終わらせていただくことができました。

次回でございますが、先ほど申しましたように、3月中には開催させていただきたいと考えています。

朝明中学校については、大きな方針、こういう方向で進めていくということを、次回の会議の場で、事務局からお示しさせていただき、それに対してご了解をいただける報告ができればという思いでして、その後、具体的なことも進めていくということでございます。

会議日程については、再度、事務局で調整させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

午前11時 8分 閉会